

■北星学園大（2020年リーグBブロック2位）

快晴に恵まれた8月13日の午後。札幌市厚別区大谷地の北星学園大正門に隣接する駐車場で、アメフト部の北野啄夢（たくむ）主将（4年、旭川南高）と待ち合わせた。すぐそばの金網フェンス越しにアメフト部が練習に使うグラウンドが望めるが、新型コロナウイルス対策で大学が部外者の構内立ち入りを禁じているため、北野主将を呼び出しての取材になった。

アメフト部の今年の部員は5人の新入生を加えて選手19人とスタッフ10人。昨年のチームから7人が卒業したが、新入生のほかに新2年生2人も加わり、選手数は何とか昨年と同数を確保できた。しかし、コロナ禍で3試合を予定していた春季オープン戦が中止になり、昨年からの実戦経験者は12人のみ。9月12日開幕の秋季リーグ戦を戦いながらチーム作りを進めるという厳しいシーズンになった。

道内に出されていた2度目の緊急事態宣言が解除されて、アメフト部が全体練習を再開できたのは7月に入ってから。ブロックやタックルの基本を中心に週4回の練習を重ね、夏休みに入った8月4日からは週5回に増やした。最高気温が23.9度と猛暑が一息ついた13日も午前中に3時間、みっちり汗を流した。北野主将は「攻撃と守備で40分ずつポジション別練習を行う。試合では全員が攻守兼任になるので」とチーム事情を説明する。WRとLB、Pを兼務する北野主将もQBとパスルートの確認を繰り返した後、LBとしてRBやOLとヒットを重ね、DBとともにパスカバーに駆け回ったという。そんな中で「去年の4年生の先輩が、WR役で練習を手伝ってくれました」と助っ人たちに感謝した。

「将来のチームの核」と期待する1、2年生の強化も練習の重要なテーマだ。「けがをせずにプレーできるように、コンタクトの基礎を念入りに教えている」と北野主将。「自分たち用にバチバチとやりたいところだが、1、2年生を育てるために時間をかけている」と言う。学外のジムに個人で通い、体作りに欠かせない週4回の筋力トレーニングもノルマだ。

秋季リーグ戦の初戦は帯広畜産大戦。「畜大には、自分が入学してから負けたことがないので大勝したい。初戦で勢いを付けて北海道大と北海学園大に挑みたい」と北野主将は決意する。昨年までのエースQBが卒業して、今季は初先発の2年生QBが司令塔を担うが「北星の武器はパス。QBをもり立てて、まずはリーグ戦を勝ち越したい。初戦に向けてみっちり鍛えたい」と宣言した。



基礎練習に汗を流す北星学園大アメフト部の選手たち（北星学園大提供）